

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101319		
法人名	社会福祉法人創世福祉事業団		
事業所名	グループホーム「輝きの郷」		
所在地	福島市山字七口13-1		
自己評価作成日	2018年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、キリストの愛と奉仕の精神でまごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただきます。また基本理念と致しまして、ゆつくり・ゆつたり・楽しく・一緒にを掲げ認知症のお年寄りをお年寄りありのまま受け入れ、穏やかに健康で明るい生活を送れるように支援致しております。お年寄りの方が一方的に介護を受けるのではなく、職員と共にご自分のペースで、また出来る範囲で日常生活にかかわって頂き、生きがいが持てるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. ボランティア団体との交流が盛んで、事業所行事へのお手伝いや清掃活動、毎週の買い物支援等の協力が有り、利用者が地域と繋がるよう取り組んでいる。
2. 事業所は法人本部に隣接され、法人の豊富な経験と知識によるサポート体制のもと、「防災対策」等委員会や内部勉強会が各事業所と合同で開催され、情報を共有し質の高いケアに努めている。
3. 事業所の建物は、周回廊下になっており、ベンチやソファ、2ヶ所の量のエリアを配置し、利用者が思い思いの場所で自由にくつろげるよう配慮している。また、中庭では好天時に外気浴やお茶会を開く等、気分転換になるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げ、年度目標、クレドを作り、実践につなげようと努力しているが、業務に追われ意識してみることが少なくなってきた。	理念は「家庭的な環境と地域の方との交流のもとで利用者の自立支援」をうたっており、「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」をモットーとしている。全職員が理念を共有し日々のケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの皆様、行事の際の付き添いや買い物、ホーム内の清掃などあらゆる活動を通して協力を得ている。	事業所ではボランティア団体との交流が盛んで毎週の買い物支援や事業所の行事への参加及び清掃活動等の協力がある。法人の幼稚園児との交流もある。さらに門松作り・日舞・歌謡ショー・フラダンス・アニマルセラピー等の訪問もあり、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加されている方々に、地域包括支援センター所長様、施設長等より話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議録を作り職員にも確認してもらっている。	運営推進会議は2事業所合同で定期的開催しており、町内会長や地区老人会の代表者、地域包括センター職員の他に利用者家族も毎回参加している。会議では委員から提言や意見が多く出されている。地域の行事の案内等情報交換の場となっており、事業所行事や運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は介護報酬改定などもあり、説明やアドバイスなどを受けた。	行政の担当者とは日頃から利用者に関する相談や事業所の状況報告等を行い、協力関係を築いている。また、市の行事にも積極的に参加しており、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加したり、勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会等を通して身体拘束の弊害は全職員が周知している。「言葉による拘束」についても全職員で意識を共有して日々のケアで実践している。日中玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。法人の身体拘束廃止委員会は今年立ち上げ、計画的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の委員会に参加、し配布資料に目を通して周知、し防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用しておられる方はおいでにならず、今年度は研修に参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームのご利用前に契約書をお渡しし説明、ご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度に入ってからは運営推進会議に参加される利用者様のご家族数が減り、意見や要望を直接お聞きできない。また玄関に意見、要望箱を設置しているが少人数のホームでは家族様は書きにくいと思われる。しかし面会時などに話を伺えるよう努力し、また申し送りなどで職員に伝えるようにしている。	事業所では日頃より、利用者及び家族が何でも言いやすい雰囲気づくりをしている。年2回の家族会や事業所行事に参加された機会をとらえて家族の意向や要望を把握している。これらの意向や要望等は「全体会議」で協議し、サービス向上や事業所運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に直接話ができない時は、申し送りの際や職員ノートなどに記入して頂き、その旨上司に伝え指示を仰いでいる。	管理者を中心に職員間の信頼関係が伺え、全職員は日頃から何でも言える環境になっている。月例の「スタッフ会議」においても職員の要望や意見等を把握しており、さらに年1回管理者は全職員の個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の辞令交付式の際に永年勤続表彰や、特別表彰などを行っている。また資格取得に向けた取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加して頂く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人福島県認知症グループホーム協議会に入会し研修会等で他の事業所との交流の場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、またご本人様からも話をお聞きし、安心してご利用できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込に来られた時からお話を伺い、ご要望等に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様に意向を伺い、ケアプランに反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で食事の準備や掃除をして頂いているが、歩行に不安のある方が多くなり、手作業のみとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際はゆっくりして頂けるよう、懐石盆にお茶お菓子をお出ししたり、行事などをホーム便りに載せ、面会日を設定しやすいようにし、夏と冬に懇親会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との面会や電話、また外出などの支援をさせて頂いている。	友人や知人の訪問があり、馴染みの関係が続けられるように支援している。入居当時は馴染みの美容院に行っていた利用者も現在は隣接する事業所の美容院に行っており、新しい馴染みの関係ができています。また、家族の協力を得て、墓参りや外食等を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや月の行事への参加を促し、またトラブルにならないように職員が仲立ちをするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「近くに来たので寄ってみた。」と訪ねて下さるご家族もおられ、介護度が変わったことなど話して行かれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室誘導の時などちょっとした時間を利用してお聞きするよう心掛けているが、個別に対応できない日もある。	一人ひとりの生活歴等はセンター方式の一部を利用して把握している。日常会話や家族の情報等から思いや意向を全職員で把握して、希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用したり、ご本にもお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやノートなどの確認を行い、お1人おひとりの体調把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の方から意向を伺うとともに担当者がモニタリングシートに記入し、計画作成者がそれを参考にケアプランを作成している。	利用者の現状把握を十分行い、利用者本位の介護計画を作成している。個別記録・申し送り書等をもとにモニタリングを行い、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態に変更があった場合には随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを作り記入し日勤帯は黒のボールペン夜間帯は赤のボールペン、特変あった際は青のボールペンで記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の方の意向に沿えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間を通して長年来て頂いている馴染みのボランティア様に協力をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及び、ご家族様のご理解を得て、利用者の方全員が地域の医療機関の診察が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診には家族同伴を基本としているが緊急時には職員が同行することもある。通院時は健康状況などを記録により医師に伝えており、受診結果は家族と情報を共有して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方の体調変化は、職員を通じて隣接のデイサービス看護職員に報告し、指示を仰ぎ必要に応じ医療機関への受診につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様や病院関係者と情報を共有し早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成し地域資源を鑑みご本人様、ご家族様、地域包括支援センター等と連携を取りながら支援している。	「事業所重度化対応指針」を作成し、利用開始時に利用者・家族に説明している。利用者の状態に変化があった場合にはその都度家族と十分話し合い、家族の希望に沿って柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の研修に参加したり、勉強会に参加するなど対応しているが、今後も引き続き勉強会に参加してもらうようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施しているほか、隣接の施設合同で訓練を実施している。	消防署立会いの避難訓練は隣接する法人の事業所と共に年1回実施しており、事業所間の協力体制は整備されている。事業所独自の防災訓練はあらゆる災害を想定し、毎月定期的に行っている。非常時の食料品・水・日用品等は備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月行われるサービス向上委員会に出席し、施設全体で接客サービスの向上に努めている。	「サービス向上委員会」等を中心に全職員が利用者のプライバシーを損ねることが無いよう、勉強会等を実施し、言葉かけ等には十分注意して対応している。トイレや入浴誘導の際は静かに声掛けをし誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の話をお聞きし、思いに添えるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの他は、なるべく個に応じた過ごし方をして頂きたいとの思いはあり、歩行可能な方は余暇を自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母の日やお誕生日の際にご家族様がプレゼントして下さる衣類など、お気に入りのものを身に付けて頂いたり、食べこぼしなどで汚れている際は着替えて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	できる範囲で食事の準備を手伝って頂き職員も一緒に食事を摂っている。また季節の行事に合わせた献立にして提供している。	献立表は利用者の希望を取り入れ、職員が作成している。利用者が週一回ボランティアの協力のもと買い物支援の際に、職員は食材の購入をしている。職員も一緒にテーブルを囲み、共に食事を楽しんでいる。また、事業所では行事食や外食を多く企画し実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回カロリー計算をして、食事量や水分量も記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はお1人おひとり口腔ケアを行い、清潔保持をしており、希望者の方には、歯科受診を往診で行って頂いている。また義歯のある方は、夜間お預かりしてポリドントにつけ清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレでの排泄を心がけ、声がけや時間で誘導をしている。	利用者の「排泄チェック表」を参考に時間や仕草等からトイレ誘導をしている。時間帯や身体機能状態に合わせて排泄用品を変える等、自立に向けた支援をしており、リハビリパンツ等の使用軽減につながった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操などの運動を取り入れているほか、フルーツヨーグルトを提供しまた水分を摂って頂いているがひどい便秘のある方は医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴事故防止の為職員数が多い日中に入浴、または足浴清拭を行っている。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴拒否者には担当者・話題・時刻等を変え利用者の気分転換を図りながら支援している。入浴出来ない利用者には足湯・シャワー浴・清拭等に対応している。季節感のある柚子湯・菖蒲湯等を楽しんでいる	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を設定せずご本人が休みたくなったら誘導するようにしている。また不安を訴えられる際は話をお聞きするなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示に従い服薬介助をしているが、服薬で変化見られた際は、医師に報告連絡を取り、ご家族にも協力を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で生活リハビリに参加して頂いたり、行事やレクリエーションへの参加を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の方に協力を得て、お墓参りや食事会など個人的に行なって下さる他、ホームの行事でも地域のボランティアの方々に協力を得て外出している。	日常的には散歩や地域行事への参加、地域ボランティアの支援による近隣の店での買い物など利用者の希望に応じた外出支援を行っている。季節感のある花見や紅葉狩り等も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持っておられるご利用者の方は2名おられますが、持っているだけで安心しておられご自分からは買い物をしたいと訴えはない。その他の方はご家族が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族の方とお話して頂いている。またご家族の方からも電話を頂いてお話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの壁面には季節の飾り付けをしたり植物を置いたりゆったり過ごせるよう配慮している。	椅子とテーブルの居間と応接室があり、廊下は周回になっており、畳のエリアも2カ所ある。さらに廊下にはソファやベンチがあり、利用者は思い思いの場所で自由にくつろいでいる。中庭もあり好天時にはお茶会を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファを置いたり、畳の空間だったり、誰でも利用できる部屋など設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人ら	ご利用の際に馴染みの家具や小物などの持ち込みをお願いしている。	居室には介護ベッド・換気扇・エアコン・洗面台・小箆箆・丸テーブル・椅子が備付けてあり、利用者によってはセンサーマットも活用している。利用者は馴染みの物を自由に持ち込んでいる。また、自分の作品を飾るなどしてその人らしい生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車椅子でも生活を送れ、トイレの場所がわかるよう表示したりご自分の居室がわかるよう表示している。		